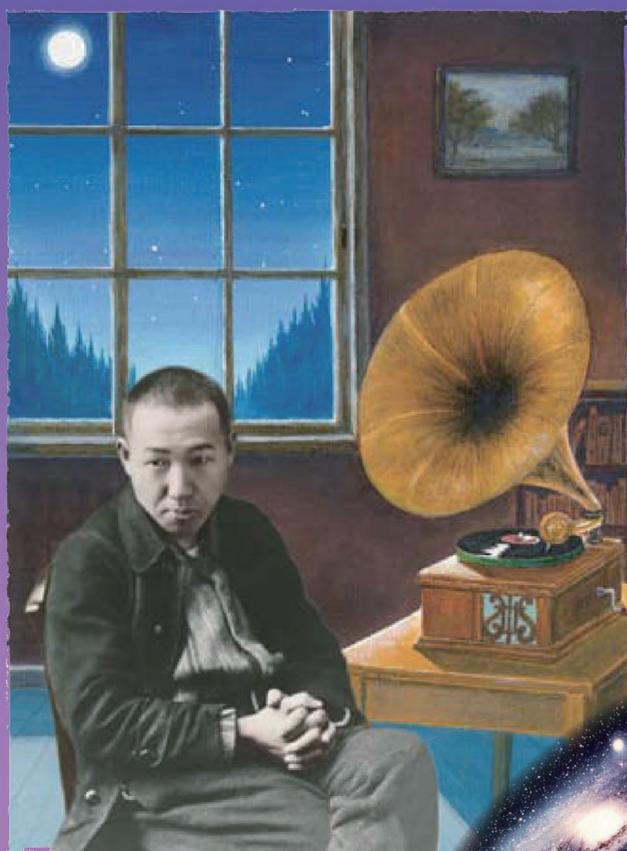


宮沢賢治生誕120年 プレコンサート

★来年の生誕120年に先立って!

賢治と上野の物語

若き賢治が憧れた上野で、この秋
賢治ゆかりの弦楽四重奏を聴く!



イラスト/田原田鶴子 ©林風舎 ©小学館

演奏

演奏 古典四重奏団

(川原千真・花崎淳生・三輪真樹・田崎瑞博)

お話; 田崎瑞博 監修; 萩谷由喜子

2015年10月17日(土)

14:00開演 (13:30開場)

演奏曲目

- チャイコフスキー
弦楽四重奏曲第1番より「アンダンテ・カンタービレ」
- ドビュッシー
「亜麻色の髪の乙女」
- ベートーヴェン
弦楽四重奏曲第4番ハ短調 より 第4楽章
- 田崎瑞博
宮沢賢治作詞作曲「星めぐりの歌」による
変奏四重奏曲 ほか



古典四重奏団 (写真/藤本史昭)

東京国立博物館平成館ラウンジ

無料

※入館料は
必要です。
(先着250名)

主催/「賢治と上野の物語」コンサート実行委員会 共催/東京国立博物館 協賛/株式会社 椿

東京国立博物館: 台東区上野公園13-9 電話番号: 03-3822-1111(代表) <http://www.tnm.jp/>

交通のご案内: JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分 東京メトロ上野駅・根津駅より徒歩15分 京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

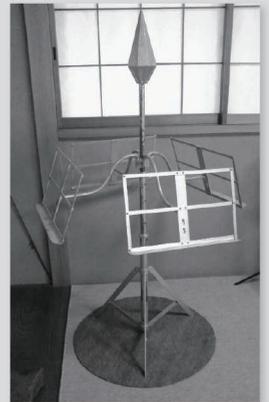


いつか自作を弦楽四重奏で… そんな夢にこたえたくて。

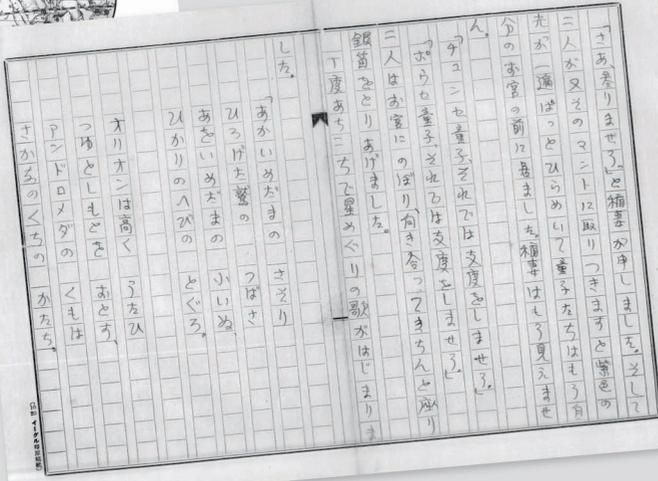
宮沢賢治作詞作曲「星めぐりの歌」による変奏四重奏曲
田崎瑞博（作曲者/古典四重奏団チェロ奏者）

童話「双子の星」の中で、星たちが歌を歌い合い、それに合わせてチュンセ童子とポウセ童子が銀笛を吹く。その歌が「星めぐりの歌」の歌詞であり、賢治自ら旋律をつけて歌ったものが後世に伝えられました。賢治の曲の中でも広く知られ、歌い続けられているものです。この旋律を基に弦楽四重奏曲を書いてみませんか、という依頼は、旧知のアマチュア演奏家からいただきました。私はこの興味深い提案に沿って、組曲風の変奏曲を二つ作りしました。「星めぐりの歌」のフレーズがそれぞれの楽章の旋律に見え隠れするように配置し、多くの方に親しんでいただき、また演奏していただけるように、（また私自身の作曲の鍛錬のために）、よく耳馴染んだ響きのものにいたしました。変奏四重奏曲の楽章は6つ。ハイドンなどの古典派風の音楽です。

賢治はチェロを愛しただけでなく、ヴァイオリンやヴィオラも購入し、弦楽四重奏用の譜面台まで共同製作していました。きっといつかは自作の歌を基にした弦楽四重奏曲を聴いてみたい、そんな憧れを持っていたのではないのでしょうか。



弦楽四重奏用
賢治譜面台のレプリカ
（所蔵/株式会社 椿）



上:「双子の星」より「星めぐりの歌」歌詞自筆（所蔵/宮沢賢治記念館）
下・右:「星めぐりの歌」楽譜 作譜:田崎瑞博
参考文献「宮沢賢治の音楽」（佐藤泰平著 筑摩書房）

古典四重奏団（川原千真・花崎淳生・三輪真樹・田崎瑞博）

86年東京芸術大学及び同大学院卒業生により結成。研ぎ澄まされた集中力と温かく透明なハーモニーを持ち、作品へのアプローチは極めて独創的である。S.ライヒと共演、ギリシア公演、ドイツ公演。「村松賞」「文化庁芸術祭大賞」「同慶秀賞」「東燃ゼネラル音楽賞奨励賞」各受賞。ベートーヴェン後期など10枚以上のCDをリリース。

夢をはぐくみ、夢に破れ…なおも憧れつづけた上野で！

二十歳の年大正5（1916）年3月から亡くなる2年前の昭和6（1931）年9月まで、宮沢賢治は合計9度上京したとされる。同郷の石川啄木、金田一京助、野村あらえびすといった盛岡中学の先輩達同様、賢治も又上野を玄関口として幾たびか東京の土を踏んだのであった。

上野はまた賢治にとって、文化芸術摂取のための目眩くばかりの要衝でもあった。第一に帝室博物館には、賢治が趣味の域を超えて愛好する浮世絵の充実した展示があった。帝国図書館では数多くの洋書を閲覧したであろう。日蓮宗系の国柱会に入り、鶯谷や広小路辺りで布教活動に専念したこともあった。

大正15（1926）年12月、賢治は演奏技術習得のためチェロを持って上京するが、どんな決意をもって上野駅に降り立ったことだろう。また昭和3（1928）年6月には伊豆大島へ、見合いを兼ねて農業指導に出かけているが、その帰りに上野へ立ち寄り、東京府立美術館の浮世絵展を観て、その感慨をいくつかの作品に残している。上野の帝国図書館は青春時代の親友・保阪嘉内との決裂の地でもあるが、そんな青春の日の様々な光と影を秘めた上野の秋に、賢治ゆかりの弦楽四重奏曲を捧げたい。来年2016年は賢治生誕120年の年。奇しくも賢治が上野の地を踏んで百年目の年にも当たる2016年へ向けたプレコンサートとして。



上野で賢治の観た浮世絵と、足繁く通った帝国図書館（現・国際子ども図書館）。

